

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 近代日本キリスト者の神道観に関する資料目録(1)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 齋藤, 公太, 木村, 悠之介 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/0002000531">https://doi.org/10.57529/0002000531</a>

## 近代日本キリスト者の神道観に関する資料目録（1）

齋藤公太・木村悠之介

キリスト教、とりわけ近代日本のキリスト教と神道の関係についての研究は、これまで数多くなされてきたとは言いがたい。日本キリスト教史において神道の問題は時に取り上げられるが、それを主題として扱った研究は必ずしも多くない。その一つの理由は、戦後の近代日本キリスト教史研究において、「神道」なるものが往々にして「国家神道」との関連でとらえられ、さらに「国家神道」も「天皇制」や「国体論」と曖昧に結びつけられていたために、「神道」がそれとして取り出されることが少なかったことにあるのではないだろうか。それは近代日本キリスト教史研究が「近代化」という視座にかつて影響されていたこととも関係があるだろう<sup>1</sup>。

他方でキリスト教と神道の関係を主題とする研究は、少数ながらも着実に積み重ねられてきた。単行本となった研究文献に限って言えば、たとえば神道とキリスト教の比較宗教学的研究である南山宗教文化研究所編『神道とキリスト教——宗教における普遍と特殊』（南山宗教文化研究所、1984年）や、歴史的資料とその解題である戸村政博編『神社問題とキリスト教（日本キリスト教史資料 1）』（新教出版社、1974年）などを挙げるができる。ただ、歴史的観点から言えば、たとえば神社非宗教論をめぐる議論に見られるように、近代に限っても「神道」なるものの意味は常に揺れ動き、それに応じて「神道」をめぐる社会的制度も変遷していった。近代日本のキリスト者は、まさにそのような概念をめぐる交渉の場において「神道」をとらえていたのである。とすれば近代日本のキリスト教と神道との関係を歴史的に理解するためには、キリスト者たちの神道観を検証することが必要であろう。近代日本キリスト者の神道観に関する先行研究もすでにあるが<sup>2</sup>、それらは個々の思想家を対象としたものであり、新聞や雑誌などのメディア全体における言説の分析が、今後の課題として残されている。

本稿は以上のような問題関心から、近代日本キリスト者の神道観に関する一次資料の目録を提示するものである。具体的には主に同志社大学人文科学研究所監修『キリスト教新聞記事総覧』全10巻（日本図書センター、1996年）のデータに基づき、明治期から昭和前期までの主要なキリスト教系新聞の記事から神道に関する記事を抽出し、目録を作成した。今回掲載するのは『福音新報』と『福音週報』の記事の一覧である。『福音新報』に関しては『キリスト教新聞記事総覧』第1巻、第6巻、第7巻、『福音週報』に関しては同第5巻のデータに基づいている。記事の抽出に際しては、神道や神社という言葉、およびそれと明確な関係を持つ事柄を主題として明示的に取り上げていることを基本的な基準とした。したがって、天皇制一般や内村鑑三不敬事件、宗教家懇談会、三教会同、宗教法案、祖先崇拜、国体論、日本精神論、日本的基督教、日本神学など、神道自体が個別的に扱われておらず、神道との関係性が曖昧な主題の場合は、基本的に除外した。ただし皇室祭祀や神道系の新宗教に関する主題は、神道との境界が問題となるが多かったため、取り上げた。

記事の全体的な傾向としては、神社参拝問題がキリスト教界全体で議論された大正から昭和初期にかけて、神道や神社に関する記事が急増することはある意味で当然であるが、明治期からすでに一部で神社と国家の結びつきを信教の自由の観点から問題視する意見があったことも注目される。明治期の神社非宗教論の問題をその点から再考することもできよう。

なお、本稿は2017～2018年度科学研究費補助金・研究活動スタート支援「明治期キリスト者の神道観—近代日本キリスト教史と神道史の架橋に向けて—」（研究代表者：齋藤公太、研究課題番号：17H07093）による研究の成果である。目録は下記のサイトにおいても公開しており、今後もアップロードを続けていく予定である。

<https://sites.google.com/view/christianityandshinto/>

資料の調査と目録の作成は齋藤の監督のもと、齋藤と木村悠之介が中心になって行ったが、飯田陽子氏にもご協力いただいた。記して感謝の意を表したい。また本目録が依拠している『キリスト教新聞記事総覧』を作成した同志社大学人文科学研究所にも深謝の意を表したい。

## 注

- 1 星野靖二「キリスト教史と〈宗教〉史のあいだ 近代・日本・宗教史」、市川裕・松村一男・渡辺和子編『宗教史とは何か』下巻所収、リトン、2009年
- 2 たとえば、岩瀬誠「植村正久の神道観と福音理解」（『國學院大學大学院紀要 文学研究科』21号、1989年3月）、田中収「内村鑑三と神道（1・2）」（『内村鑑三研究』38・39号、2005年8月・2006年8月）、井之上大輔「柏木義田の神社参拝批判とその神道観」（『筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所年報』25号、2014年8月）、洪伊杓「松山高吉と海老名弾正の神道理解に関する比較分析」（『基督教学研究』34号、2014年12月）など。なお、同志社大学人文科学研究所編・土肥昭夫／田中真人編著『近代天皇制とキリスト教』（人文書院、1996年）は、『キリスト教新聞記事総覧』の採録紙と重複するキリスト教系のメディアを主要な分析の対象としており、本研究とも重なっている。同書はやはり「天皇制」研究に軸を置いており、「神道」への言及はその限定の範囲内にあるが、むしろ史料基盤の整備と並行して行われた先駆的なメディア分析という点にこそ、ここでの先行研究としての価値が存していると言えるだろう。

### 『福音新報』神道関係記事一覧

著者	カテゴリー	タイトル	巻号	刊行年月日
	世事雑件	〔当港湊川神社の大祭について〕	1巻3号	1883(明治16)年7月17日
	世事雑件	〔日本全国の有名な神社仏閣を写真撮影し宮内省に保存する計画〕	1巻3号	1883(明治16)年7月17日
	世事雑件	〔東京護国神社より出火〕	1巻6号	1883(明治16)年8月7日
	世事雑件	教導職廃止	2巻33号	1884(明治17)年8月13日
	世事雑件	神官僧侶	2巻34号	1884(明治17)年8月20日
	雑録	宣長の文	14号	1891(明治24)年6月19日
	時評	神道黒住派の海外布教	45号	1892(明治25)年1月22日
	時評	神道は宗教にあらず	47号	1892(明治25)年2月5日
	時評	神道	52号	1892(明治25)年3月11日
	時評	田口卯吉氏は耶蘇信者にあらず	53号	1892(明治25)年3月18日
	神道	神道各派間の訴訟事件	89号	1892(明治25)年11月25日
	雑報	社寺上地返還の運動	98号	1893(明治26)年1月27日
	教報	桓武天皇遷都記念大祭期日	167号	1894(明治27)年5月24日
	教報	神道家の千鳥伝道	169号	1894(明治27)年6月8日
	雑纂	平安宮立柱式	172号	1894(明治27)年6月29日
	教報	岩倉神社建設の計画	175号	1894(明治27)年7月20日
	雑纂	神道家小西仙吉氏の遭難	185号	1894(明治27)年9月28日

	雑纂	神社保存下附金	188号	1894(明治27)年10月19日
	雑纂	島村みつ女の復職	189号	1894(明治27)年10月26日
	雑纂	蓮門教会の再紛擾	193号	1894(明治27)年11月23日
	雑纂	社寺境外土地の還附	200号	1895(明治28)年1月11日
	雑纂	神仏各派教師検定に関する訓令	221号	1895(明治28)年6月7日
	雑纂	神職登用規則	7号	1895(明治28)年8月16日
	雑録	花もみぢ 招霊祭	8号	1895(明治28)年8月23日
	雑俎片々	神道	14号	1895(明治28)年10月4日
孤劍生	説苑	招魂祭所感	17号	1895(明治28)年10月25日
	教報	天理	20号	1895(明治28)年11月15日
	雑俎片々	天理	25号	1895(明治28)年12月20日
	新刊紹介	宣教師グリーン氏の天理教調査	25号	1895(明治28)年12月20日
	雑俎片々	天理	32号	1896(明治29)年2月7日
	雑俎片々	北海道の天理教徒	46号	1896(明治29)年5月15日
	雑俎片々	神宮	48号	1896(明治29)年5月29日
	雑録	片々 古事記と創世記	51号	1896(明治29)年6月19日
	雑俎片々	神社仏閣復活の時機	54号	1896(明治29)年7月10日
	雑録	伊勢大廟の記念大祭	58号	1896(明治29)年8月7日
	教界近事	神道及び儒教僧侶	60号	1896(明治29)年8月21日
	彙報	南洲翁の二十年祭	65号	1896(明治29)年9月25日
	彙報	社寺保存の目的と金額	68号	1896(明治29)年10月16日
	彙報	日光廟大修繕	73号	1896(明治29)年11月20日
	彙報	天理教の衰頹か	76号	1896(明治29)年12月11日
	説苑	皇太神宮御鎮座奉祝記念会(東京新聞)	82号	1897(明治30)年1月22日
	彙報	帝室の葬式	82号	1897(明治30)年1月22日
	もしほ草	伊勢暦頒布の由来	88号	1897(明治30)年3月5日
	彙報	神宮教院の革新	89号	1897(明治30)年3月12日
	編者の机上	御真影への供饌	90号	1897(明治30)年3月19日
[植村正久]		彼の神道を如何せん	91号	1897(明治30)年3月26日
	彙報	神道神宮教宗教外に立たんことを望む	91号	1897(明治30)年3月26日
	彙報	新神道	94号	1897(明治30)年4月16日
	もしほ草	全国神職大会(世界の日本)	96号	1897(明治30)年4月30日
	彙報	井上正鏡翁帰葬二十年祭	104号	1897(明治30)年6月25日
	彙報	徳川時代の儒教哲学か神道の教理か	110号	1897(明治30)年8月6日
	彙報	伊勢大廟参拝者	134号	1898(明治31)年1月21日
	教報	淫祠合併の相談	175号	1898(明治31)年11月4日
	教報	基督信者と従来の氏子又は檀家名簿	214号	1899(明治32)年8月4日
	教報	神宮奉斎会	223号	1899(明治32)年10月4日
	雑件	宗教局と神社局	245号	1900(明治33)年3月7日
[植村正久]		宗教局と神社局	253号	1900(明治33)年5月2日
	雑件	天理教中学校及び經典の編纂	255号	1900(明治33)年5月16日
	雑件	神社法案制定せられんとす	260号	1900(明治33)年6月20日
	雑件	祭典と町内の若者	262号	1900(明治33)年7月4日
	雑件	神仏教徒と人権問題	273号	1900(明治33)年9月19日
	海の内外	黒住教の教義	318号	1901(明治34)年7月31日
	海の内外	久米翁の学説自由論	321号	1901(明治34)年8月21日
	海の内外	淫祠の取締	321号	1901(明治34)年8月21日
	卓上雑説	天長節と基督教徒	333号	1901(明治34)年11月13日
	海の内外	神宮僧侶は小学校教師たるを得べし	339号	1901(明治34)年12月25日
	海の内外の	神職僧侶と議員選挙	354号	1902(明治35)年4月9日
	海の内外	神仏二道の各宗派	356号	1902(明治35)年4月23日
	海の内外	児童の神社仏閣観	372号	1902(明治35)年8月14日
[植村正久]	卓上雑説	古事記と伝道書	376号	1902(明治35)年9月11日
	海の内外	神道の結婚式	381号	1902(明治35)年10月16日
	海の内外	神道と仏教	383号	1902(明治35)年10月30日
	海の内外	神社の淘汰	385号	1902(明治35)年11月13日
	海の内外	総選挙と神職僧侶	396号	1903(明治36)年1月29日
	海の内外	古社寺保存会と建造物	416号	1903(明治36)年6月18日

	海の内外	神社と神職概数	428号	1903(明治36)年9月10日
	海の内外	神主の運動	436号	1903(明治36)年11月5日
紅緑	雑録	七福神を毀つるの辞	441号	1903(明治36)年12月10日
	海の内外	神宮司庁攻撃の建議	444号	1904(明治37)年1月1日
	海の内外	御嶽教の管長逝く	469号	1904(明治37)年6月23日
	海の内外	天理教の独立運動	509号	1905(明治38)年3月30日
	海の内外	東京に於ける社寺及び会堂	515号	1905(明治38)年5月11日
	海の内外	神仏両教者に対する訓令	540号	1905(明治38)年11月2日
	卓上雑説	神社を娯楽場とすべし	563号	1906(明治39)年4月12日
	海の内外	靖国神社参拝者	567号	1906(明治39)年5月10日
	海の内外	神道諸派	572号	1906(明治39)年6月14日
	海の内外	神道各派神職の一夜潰	575号	1906(明治39)年7月5日
	海の内外	神社仏閣合併の勅令	581号	1906(明治39)年8月16日
	東西南北	天理教と内務省	588号	1906(明治39)年10月4日
	東西南北	殉難傑士の祭典	589号	1906(明治39)年10月11日
	東西南北	天理教独立不認可	591号	1906(明治39)年10月25日
呉秀三氏	時文摘載	『見神』及び『自称神仏』の精神病院学観(中央公論)	593号	1906(明治39)年11月8日
	時文摘載	七福の神(宝の蔵)	605号	1907(明治40)年1月31日
	文界消息	『神道』	617号	1907(明治40)年4月25日
	家庭	家庭のよもやま 神前の結婚	621号	1907(明治40)年5月23日
	東西南北	社寺合併の経過	636号	1907(明治40)年9月5日
	新刊紹介	日本古代史と神道との関係 警醒社発行	650号	1907(明治40)年12月12日
		『国家的儀式と神道』	671号	1908(明治41)年5月7日
	東西南北	全国の天理教信徒	678号	1908(明治41)年6月25日
	東西南北	神教及び仏教の宗派	690号	1908(明治41)年9月17日
	東西南北	内務省と神職養成	698号	1908(明治41)年11月12日
	東西南北	天理教の独立	701号	1908(明治41)年12月3日
	東西南北	神道の結婚式場	701号	1908(明治41)年12月3日
	時文摘載	加藤玄智氏の『原始神道に於ける神観』	703号	1908(明治41)年12月17日
	東西南北	神社合併に就て	705号	1909(明治42)年1月1日
	東西南北	天理教の独立祭	713号	1909(明治42)年2月25日
		不徳なる天理教会	715号	1909(明治42)年3月11日
	時文摘載	文学博士遠藤隆吉氏の『神道の意味』(太陽)	716号	1909(明治42)年3月18日
	東西南北	富士山上に天拝所	724号	1909(明治42)年5月13日
	卓上叢話	所謂敬神教育の提議	730号	1909(明治42)年6月24日
	卓上談叢話	神道非宗教	732号	1909(明治42)年7月8日
	東西南北	神職養成部の開始	733号	1909(明治42)年7月15日
	卓上叢話	当局者の天理教観	742号	1909(明治42)年9月16日
	東西南北	金刀比羅宮は神か仏か	749号	1909(明治42)年11月4日
[植村正久]	卓上叢話	新嘗感謝礼拝	753号	1909(明治42)年12月2日
	東西南北	弟橘媛命碑	789号	1910(明治43)年6月9日
		新嘗感謝礼拝 田川大吉郎氏演説/植村正久氏説教伝道	805号	1910(明治43)年12月1日
[植村正久]		新嘗感謝礼拝とキリスト教の適用	805号	1910(明治43)年12月2日
瀧浦文彌	寄書	新嘗の歌について	807号	1910(明治43)年12月15日
田川大吉郎	寄書	新嘗のうたのこゝろ	809号	1910(明治43)年12月27日
	東西南北	山門の上に鳥居	815号	1911(明治44)年2月9日
	東西南北	古事記撰上記念祭	821号	1911(明治44)年3月23日
[植村正久]		実に堪るものでない	828号	1911(明治44)年5月11日
	東西南北	神社の数	835号	1911(明治44)年6月29日
	東西南北	社苑の取締	843号	1911(明治44)年8月24日
益富政輔		連門教の末路	845号	1911(明治44)年9月7日
	東西南北	全国の神社数	856号	1911(明治44)年11月23日
[植村正久]		新嘗感謝礼拝	857号	1911(明治44)年11月30日
	東西南北	寒詣りの人数	864号	1912(明治45)年1月18日
	教勢	記念か礼拝か	894号	1912(大正元)年8月15日
	教勢	寛博士の古神道論	896号	1912(大正元)年8月29日
柏木義円		読者より 基督教と神道	898号	1912(大正元)年9月12日
	教勢	神官の煩悶	898号	1912(大正元)年9月12日

		大祭祝日	898号	1912(大正元)年9月12日
	東西南北	即位大嘗会	916号	1913(大正2)年1月16日
	教勢	神仏両教の現況	929号	1913(大正2)年4月17日
	時事だより	明治神宮の計画	945号	1913(大正2)年8月7日
近藤良董		神楽歌の人生観	947号	1913(大正2)年8月21日
	東西南北	明治神宮決定	947号	1913(大正2)年8月21日
尾島眞治		平田氏の「神道の人生観」を読む	953号	1913(大正2)年10月2日
[植村正久]		新嘗祭の宗教	961号	1913(大正2)年11月27日
	東西南北	明治神宮建設調査委員	966号	1914(大正3)年1月1日
	現今の文壇	仏教家の神道観	979号	1914(大正3)年4月2日
	教勢	宮司の予審終結と神社問題	995号	1914(大正3)年7月23日
南湖暎生		明治神宮奉建の問題 上	998号	1914(大正3)年8月13日
南湖暎生		明治神宮奉建の問題 中	999号	1914(大正3)年8月20日
南湖暎生		明治神宮奉建の問題 下	1000号	1914(大正3)年8月27日
	現今の文壇	神道は宗教か	1006号	1914(大正3)年10月8日
S		神社問題と保守的思想	1010号	1914(大正3)年11月5日
		神社問題の説き方	1011号	1914(大正3)年11月12日
TS	時事だより	神社問題と神道家	1012号	1914(大正3)年11月19日
	教勢	神道宗躍起となる	1014号	1914(大正3)年12月3日
	東西南北	大礼神宮両費可決	1017号	1914(大正3)年12月24日
	教勢	大津通信 狼狽せる神仏教徒	1037号	1915(大正4)年5月13日
	譚叢	穩田の神様	1042号	1915(大正4)年6月17日
GU生	寄書	大礼参列に就て	1048号	1915(大正4)年7月29日
田中達		神道の神観	1059号	1915(大正4)年10月14日
田中達		神道の神観(中)	1060号	1915(大正4)年10月21日
田中達		神道の神観(下)	1061号	1915(大正4)年10月28日
	新刊紹介	神道管見 田中達著	1061号	1915(大正4)年10月28日
TK		御大礼所感	1062号	1915(大正4)年11月4日
	譚叢	大黒天の極意	1062号	1915(大正4)年11月4日
TK		学校に於ける神社参拝	1067号	1915(大正4)年12月9日
TK	時事だより	神社問題に就て	1076号	1916(大正5)年2月10日
		神仏滑稽問答	1076号	1916(大正5)年2月10日
	思想界の消息	大黒天考	1078号	1916(大正5)年2月24日
		神社と宗教	1082号	1916(大正5)年3月23日
	思想界の消息	神道と道徳との関係	1115号	1916(大正5)年11月9日
	時事だより	笈博士の講筵と婦人論	1129号	1917(大正6)年2月15日
	教勢	神社礼拝に関する決議案	1158号	1917(大正6)年9月6日
		「敬神思想」の鼓舞	1171号	1917(大正6)年12月6日
	思想界の消息	日本神道学の建設	1175号	1918(大正7)年1月3日
	教勢	神仏混淆の復活の兆	1186号	1918(大正7)年3月21日
	教勢	神祇官衛設置建議	1186号	1918(大正7)年3月21日
	教勢	全国神職大会の協議	1196号	1918(大正7)年5月30日
江原守直		神社費と基督者	1205号	1918(大正7)年8月1日
	書きあつめ	神社に天主教鐘	1210号	1918(大正7)年9月5日
		神社に禁酒を励行すべし	1217号	1918(大正7)年10月24日
[植村正久]		新嘗感謝礼拝に就きて	1221号	1918(大正7)年11月21日
	思想界の消息	敬神愛国の本義	1221号	1918(大正7)年11月21日
田中達		金光教祖と其思想(一)	1280号	1920(大正9)年1月8日
田中達		金光教祖と其思想(二)	1281号	1920(大正9)年1月15日
田川大吉郎		神道的傾向に注意せよ	1310号	1920(大正9)年8月5日
田川大吉郎		神道講坐成る	1319号	1920(大正9)年10月7日
		卓上問話 神社は宗教であるか	1324号	1920(大正9)年11月11日
	書きあつめ	明治神宮の大鳥居	1324号	1920(大正9)年11月11日
	書きあつめ	明治神宮御垣内の用材	1324号	1920(大正9)年11月11日
小野村林藏		神社に対する疑義	1326号	1920(大正9)年11月25日
	書きあつめ	伊勢参宮の減少	1334号	1921(大正10)年1月20日
[植村正久]		『神道との軋轢=加特力教徒は従ひ得るか』	1339号	1921(大正10)年2月24日
[植村正久]		神道は宗教でないか	1347号	1921(大正10)年4月21日

	思想界の消息	神道に現はれたる国民性	1350号	1921(大正10)年5月12日
小野村生		神社を眺めて	1352号	1921(大正10)年5月26日
	書きあつめ	神馬の虐待	1367号	1921(大正10)年9月8日
	書きあつめ	社寺開放運動	1370号	1921(大正10)年9月29日
	世のさまざま	江木博士の神霊論	1372号	1921(大正10)年10月13日
	世のさまざま	神様の戸籍調	1372号	1921(大正10)年10月13日
	世のさまざま	明治神宮	1373号	1921(大正10)年10月20日
	世のさまざま	大本教の怪物	1444号	1923(大正12)年3月1日
	世のさまざま	大本教の再起説	1460号	1923(大正12)年6月21日
[植村正久]		災後の新嘗感謝礼拝に於て(一)	1476号	1923(大正12)年12月5日
[植村正久]		災後の新嘗感謝礼拝に於て(二)	1477号	1923(大正12)年12月14日
	世のさまざま	大本教	1477号	1923(大正12)年12月14日
	世のさまざま	敬神家の大臣	1481号	1924(大正13)年1月25日
	世のさまざま	仏様と神様の運動	1491号	1924(大正13)年4月10日
	世のさまざま	靖国神社	1496号	1924(大正13)年5月8日
	世のさまざま	水天宮様	1497号	1924(大正13)年5月15日
	書きあつめ	明治神宮を種の食はせもの	1526号	1924(大正13)年10月30日
	書きあつめ	古事記の直筆	1572号	1925(大正14)年9月17日
	書きあつめ	宮中女官の信仰	1572号	1925(大正14)年9月17日
	書きあつめ	神社のお賽銭	1573号	1925(大正14)年9月24日
	新刊紹介	神社に対する疑義 小野村林藏著	1587号	1926(大正15)年1月1日
K		祖国・神社・宗教(小野村氏著「神社に対する疑義」を讀みて)	1593号	1926(大正15)年2月18日
		御大礼に関する計画	1726号	1928(昭和3)年9月20日
		神社問題に就て真宗各派の声明書 主相、内相、文相及び神調各委員に提出	1795号	1930(昭和5)年1月30日
高島米峰氏		神社は宗教か 『東京日日』	1797号	1930(昭和5)年2月13日
	神社制度調査会に対する東京府神職側の声明書	神社制度調査に関する卑見	1799号	1930(昭和5)年2月27日
		複雑なる神社問題 解決には根本義を定めよ	1801号	1930(昭和5)年3月13日
		神社問題に関する一つの意見 神社の本質と宗教	1806号	1930(昭和5)年4月17日
S		神社問題	1807号	1930(昭和5)年4月24日
		神社問題懇談会	1807号	1930(昭和5)年4月24日
		神社問題座談会	1807号	1930(昭和5)年4月24日
		神社問題に関する一つの意見(承前) 神社の本質と宗教	1807号	1930(昭和5)年4月24日
		神社に関する一つの意見(承前) 神社の本質と宗教	1808号	1930(昭和5)年5月1日
	書齋から	『神社問題』	1809号	1930(昭和5)年5月8日
		神社問題懇談会	1809号	1930(昭和5)年5月8日
	彙報	〔『基督教世界』巻頭の『神社問題の一断案』よりの一節〕	1809号	1930(昭和5)年5月8日
		神社と憲法 美濃部、寛兩博士の所説	1812号	1930(昭和5)年5月29日
	書齋から	『神社対宗教』文・博・加藤玄智編	1813号	1930(昭和5)年6月5日
		神社問題に関する進言	1813号	1930(昭和5)年6月5日
		全国神職会宣言書	1813号	1930(昭和5)年6月5日
高楠純次郎		神社問題	1815号	1930(昭和5)年6月19日
佐波		神社問題 満洲安東に於ける	1815号	1930(昭和5)年6月19日
撫順 石島生		再び満洲に神社問題	1815号	1930(昭和5)年6月19日
高楠純次郎		神社問題	1816号	1930(昭和5)年6月26日
		満洲安東女学校に於ける神社参拝拒否の問題 本紙一八一五号第九頁参照	1818号	1930(昭和5)年7月10日
	書齋から	『神社問題に就て』日本基督教聯盟編	1819号	1930(昭和5)年7月17日
		神社問題	1821号	1930(昭和5)年7月31日
前宗教局長 下村壽一		窮屈・矛盾・危な険る神社論に就いて(上)	1823号	1930(昭和5)年8月14日
	彙報	〔神社問題に就いて〕	1823号	1930(昭和5)年8月14日
前宗教局長 下村壽一		窮屈・矛盾・危険なる神社論に就いて(下)	1824号	1930(昭和5)年8月21日

	彙報	〔『生命の水』九月号掲載の鈴木高志の一文『神社宗教は旧約か』〕	1831号	1930(昭和5)年10月9日
S		新嘗感謝(十一月廿三日所感)	1839号	1930(昭和5)年12月4日
		〔「天理教本部」『改造』掲載〕	1861号	1931(昭和6)年5月14日
	彙報	全国神職会	1863号	1931(昭和6)年5月28日
〔村岡典嗣〕		平田篤胤の神学に於る耶蘇教の影響	1866号	1931(昭和6)年6月18日
		〔神社問題〕	1936号	1932(昭和7)年11月3日
		〔十一月一日発行の『皇国時報』中上智大学生の靖国神社参拝拒絶の問題に就て同大学『配属将校の談』として記載された記事〕	1937号	1932(昭和7)年11月10日
		非常時とお賽銭 附神社設置運動	1938号	1932(昭和7)年11月17日
	彙報	〔日本基督教会教友会主催、『神社問題に関する講演修養会』〕	1939号	1932(昭和7)年11月24日
	彙報	〔カトリックの上智大学、神社問題〕	1941号	1932(昭和7)年12月8日
		日本精神振興策 神社の経営維持／神社の待遇改善／神社の整理／神社の本質論	1959号	1933(昭和8)年4月27日
		民族運動振作に神道改革 神社に督学官制度を採用のこと	1976号	1933(昭和8)年8月24日
原戊吉		大和民族の神観を繙ねて(一)	1983号	1934(昭和9)年2月8日
原戊吉	〔研究〕	大和民族の神観を繙ねて(二)	1984号	1934(昭和9)年2月15日
原戊吉	〔論説〕	大和民族の神観を繙ねて(三)	1985号	1934(昭和9)年2月22日
原戊吉	〔論説〕	大和民族の神観を繙ねて(四)	1986号	1934(昭和9)年3月1日
原戊吉	〔論説〕	大和民族の神観を繙ねて(五)	1987号	1934(昭和9)年3月8日
原戊吉	〔論説〕	大和民族の神観を繙ねて(六)	1988号	1934(昭和9)年3月15日
原戊吉	〔論説〕	大和民族の神観を繙ねて(七)	1989号	1934(昭和9)年3月22日
原戊吉	〔論説〕	大和民族の神観を繙ねて(八)	1990号	1934(昭和9)年3月29日
	〔雑報 続〕	都京帝大に神道講座	1992号	1934(昭和9)年4月12日
	〔雑報〕	天理教の台湾庁 = 本島民へ伝道	2011号	1934(昭和9)年8月23日
	〔雑録 続〕	神社参拝激増	2013号	1934(昭和9)年9月6日
	〔雑報 続〕	満洲に天理教村	2022号	1934(昭和9)年11月8日
	〔雑報 続〕	昭和神聖会東京支部 廿三日発表式	2025号	1934(昭和9)年11月29日
	雑報	神仏教団紛擾と文相 代議士の質問に回答	2039号	1935(昭和10)年3月14日
	教界話の種	宣教師の神道研究で博士	2041号	1935(昭和10)年3月28日
	雑報	同志社高商神棚問題	2054号	1935(昭和10)年6月27日
	雑報	伊勢神宮地域拡張 宇治山田市の新施設	2057号	1935(昭和10)年7月18日
神道本局管長 神崎一作	〔雑報 続〕	宗教団体法の基礎的問題	2073号	1935(昭和10)年11月7日
	時事だより	大本教の検挙	2078号	1935(昭和10)年12月12日
	彙報	朝鮮長老派神社参拝問題	2079号	1935(昭和10)年12月19日
	〔雑報続〕	大本教に対する処置	2089号	1936(昭和11)年3月5日
	〔雑報〕	大本教の起訴 不敬罪と治安維持法で	2090号	1936(昭和11)年3月12日
	雑報	天照大神宮の奉斎	2095号	1936(昭和11)年4月16日
	卓上雑説	金光教の騒動	2096号	1936(昭和11)年4月23日
	卓上雑説	金沢の神職大会	2096号	1936(昭和11)年4月23日
	雑録	大本の処分始まる	2099号	1936(昭和11)年5月14日
	〔雑報〕	命令で天理教会閉鎖	2100号	1936(昭和11)年5月21日
	彙報	全小学校に神棚設置	2101号	1936(昭和11)年5月28日
	雑報	神職の社会的進出	2103号	1936(昭和11)年6月11日
	〔主張〕	神職職能の境界線	2104号	1936(昭和11)年6月18日
	近時片々	神官の再教育	2104号	1936(昭和11)年6月18日
	彙報	神社神職教養の実況	2106号	1936(昭和11)年7月2日
	彙報	神祇院設置の気運	2107号	1936(昭和11)年7月9日
	彙報	気比神宮の大拡張	2111号	1936(昭和11)年8月6日
	近事片々	天理教振はず	2113号	1936(昭和11)年8月20日
	彙報	サイパン島に金比羅神社	2114号	1936(昭和11)年8月27日
	彙報	切支丹殉教者神仏聯合慰霊祭	2114号	1936(昭和11)年8月27日
	彙報	生長の家の遁辞	2119号	1936(昭和11)年10月1日
	雑報	近畿神職協議会	2124号	1936(昭和11)年11月5日
やまもと	経済漫評	神事	2125号	1936(昭和11)年11月12日



	世相一班	仏教滋賀県聯合会神宮建設を翼賛	2126号	1936(昭和11)年11月19日
	世相一班	満洲の人のみち檢拳	2126号	1936(昭和11)年11月19日
	世相一班	神社の禁酒運動	2126号	1936(昭和11)年11月19日
	世相一班	サムハラ神殿焼却	2126号	1936(昭和11)年11月19日
	世相一班	移管で神官大に騒ぐ	2126号	1936(昭和11)年11月19日
千葉胤春	一凡人の求道 記録 凡夫救 ひを追ふて(つ づき)	神武天皇天神を郊祀り給ふ	2126号	1936(昭和11)年11月19日
	彙報	生長の家没落	2132号	1937(昭和12)年1月1日
	世相一班	祭政一致と仏教	2138号	1937(昭和12)年2月28日
波羅生	途上雑信	渡会神道の一問題	2141号	1937(昭和12)年3月11日
	[主張]	神社神道は自重を要す	2142号	1937(昭和12)年3月18日
	世相一班	軍部と神道	2142号	1937(昭和12)年3月18日
波羅生	途上雑信	神惟基督、基督惟神	2145号	1937(昭和12)年4月8日
	雑報	『ひとのみち』の致命的処分	2145号	1937(昭和12)年4月8日
	雑報	神典連続講座	2146号	1937(昭和12)年4月15日
波羅生	途上雑信	『鬼神新論』と『基督抹殺論』	2151号	1937(昭和12)年5月20日
波羅生	途上雑信	基督教と国民精神	2160号	1937(昭和12)年7月20日
	彙報	宗派神道の危機	2160号	1937(昭和12)年7月20日
	彙報	国教大道社復興	2189号	1938(昭和13)年2月17日
	彙報	宗派神道有力者の死去	2192号	1938(昭和13)年3月10日
原生	時事だより	「神社は宗教に非ず」	2198号	1938(昭和13)年4月21日
	彙報	大本教結審	2202号	1938(昭和13)年5月19日
		内務省の淫祠狩	2212号	1938(昭和13)年7月28日
	官社一五三号 昭和十三年十 月十二日 文部次官	靖国神社臨時大祭に際し全国民黙祷の時間設定並に 戦役軍人の慰霊祭執行に関する件	2223号	1938(昭和13)年10月13日
	新刊紹介	日本と基督教神社問題 田川大吉郎／沖野岩三郎著	2261号	1939(昭和14)年7月13日

『福音週報』神道関係記事一覧

著者	カテゴリー	タイトル	巻号	刊行年月日
	雑報	神官の運動	13号	1890(明治23)年6月6日
	内報	神官の奔走	23号	1890(明治23)年8月15日
	教報	基督教新聞の新嘗祭	33号	1890(明治23)年10月24日

※著者が植村正久と推定される記事に関しては、大カッコに入れて著者名を挿入した。